

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	辻口 貴清		
入学年度	平成 29 年度	学籍番号	17GG701
領域	放射線技術科学	分野	—
審査委員	主査	中村 敏也	
	副査	井瀧 千恵子	
	副査	木立 るり子	
	副査	柏倉 幾郎	

論文題目： 原子力災害時医療の初動体制に関するアクティブ・ラーニング教材の構築

審査結果要旨： 本研究は、「原子力災害医療派遣チーム」(NEMAT) 人材育成を目的とした教育プログラムの開発と、原子力災害拠点病院の NEMAT 隊員に教育研修を実践し理解度および教材のブラッシュアップに資する教育ニーズの調査を目的にしている。方法は、弘前大学に所属する NEMAT 隊員（医師、看護師、診療放射線技師、業務調整員）で教材開発ワーキンググループを組織し、平時にてその活動を体感できる被ばく医療アクティブ・ラーニング教材開発を行った。さらに、2017年7月から2019年9月の期間に、原子力災害拠点病院において実際の NEMAT 隊員を対象に「原子力災害医療派遣チーム専門研修」を計7回開催し、研修会終了後に理解度及び教育ニーズを調査した。その結果、原子力災害急性期の医療活動学習を可能とする教材構築に至ると共に、本邦における原子力災害時に対応する際の課題を明らかにした。これらの成果は、国際学術誌 *Disaster Medicine and Public Health Preparedness* にタイトル名 ”The Development of an Active Learning Program for the Medical Responders in a Nuclear Disaster” (DOI: 10.1017/dmp.2018.168, 2018) で筆頭著者として採択済みである。併せて、博士後期課程在籍中に5報の原著論文を発表している。

学位論文には研究課題に関する内容が系統的かつ過不足なく記述されており、審査会では研究内容の意義及び結果について十分理解している事が確認された。さらに、申請者の研究領域に関する知識と、自立して研究を遂行できる能力を備えていることも確認された。

以上の結果から、研究内容は博士論文に十分な内容を有し、申請者は博士に相応しいレベルにあるものと判定した。

最終試験 令和 2 年 1 月 27 日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。

(以下、被ばく医療コース選択者についてのみ記入)

論文のテーマは、放射線に関連した内容であると 認められる ・ 認められない 。